

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	基礎学力の充実に向けたバランスのとれた教育課程を編成するとともに多様な生徒の進路希望に対応する質の高い学習指導に取り組み、生徒一人ひとりの学習機会の拡大を促進する。	新学習指導要領の完全実施に向けて、教育課程の充実を図ると共に、すべての生徒の学習を保障し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにICTを活用した指導方法の工夫・改善を図る。	①生徒に身に付けさせるべき力を確認し、全教員・生徒がそれを共有する。 ②主体的・対話的で深い学びを重点に置いたICT機器を活用する指導方法について研究する。 ③特別募集生徒を含めてすべての生徒に対してわかりやすい授業を目指した指導方法を研究する。	①生徒に身に付けさせるべき力を教員全体で共有できたか。また、それを生徒と共有できたか。 ②主体的・対話的で深い学びを重点に置いたICT機器を活用する指導方法の研究を進めることができたか。 ③特別募集生徒を含めてすべての生徒に対してわかりやすい授業を目指した指導方法の研究を進めることができたか。	①各教科で新学習指導要領における「単元の指導と評価の計画」を作成する際に、「生徒に身に付けさせるべき力」の検討を進めた。しかし、学校全体で共有するには至っていない。 ②新型コロナウイルス感染症対策に伴い、すべての教科でオンライン授業を実施した。分散登校における課題の連絡や管理を学校全体で組織的に行うことができた。 ③職員ミニ研修やICT研修会を行い、特別募集生徒を含めたすべての生徒に対し、わかりやすい授業を目指した指導方法の研究を進めた。	①学校の教育目標を踏まえながら学校全体で共有し、さらに具体的な指導方法を検討していく必要がある。 ②1人1台端末を活用した主体的な学習活動の指導方法について研究していく必要がある。 ③全学年に特別募集生徒が在籍する中で指導方法や支援体制をさらに整備していく。	①生徒に身に付けさせる力を職員間で共有できなかったのは問題ではないか。 ②ICT端末を次年度から全員に持てるように準備したことは評価できる。ICTを使うことよりも、どのような事を身に付けさせたいかが大事である。中学校と高校とのルールの違いに戸惑うのではないか。 ③チームティーチングの実施やICTの利活用が特別募集の生徒だけでなく、一般生徒のわかりやすい授業へ効果を上げていることは評価できる。	①新学習指導要領の実施に向けて教育課程編成や単元の指導と評価の計画、成績処理シートなどの準備を進めることができた。生徒に身に付けさせるべき力を育む指導方法についてさらに検討をしていく必要がある。 ②新型コロナウイルス感染症対策に伴い、すべての教科でオンライン授業を実施した。分散登校における課題の連絡や管理を学校全体で組織的に行うことができた。また、ICT機器を活用した授業や学習について組織的に行うことができた。 ③職員ミニ研修やICT研修会を通じて、特別募集を含めたすべての生徒に対して、わかりやすい授業を目指した指導方法の研究を進めることができた。	①ICTを取り入れて学習する習慣を身に付けさせたい。 ②1人1台端末を活用した主体的な学習活動の指導方法について研究していく必要がある。 ③全学年で特別募集生徒が在籍する中で、指導方法や支援体制をさらに整備していく。
2 生徒指導・支援	①自転車乗車マナーの向上を積極的に進め、交通安全に対する取組を組織的に推進する。 ②生徒の自主的・主体的な活動を支援し、豊かな人間性や社会性を培う活動内容の充実を図る。	①自転車事故の未然防止や運転マナー向上のため地域や外部機関と連携し、きめ細かな指導を行う。 ②自主的、自発的な生徒会活動を支援し、多くの生徒が主体的に参加できるように取り組む。	①年間を通じた交通安全指導を実施するとともに、マナー向上のため地域との連携を含めた講習等で意識改革を図る。 ②・生徒会活動および委員会活動を主に、ボランティア活動への参加を促し、自発的な行動力を身に付けさせる。 ・部活動の活性化を推進し、部活動安全対策支援事業を通じた支援を行い、部活動加入率の増加を目指す。	①・交通安全の意識が向上されたか。 ・安全運転により事故を減らすことができたか。 ②・ボランティア活動の参加人数、参加回数と活動内容を確認し、生徒の人格の向上が図ることができたか。 ・部活動、委員会活動の活性化がみられたか。部活動加入率の向上はみられたか。部活動安全対策支援事業は実施し得たか。	①意識の向上並びにマナーの改善については、近隣住民の方々からの苦情等や事故件数の減少などから考えると多少ではあるが効果が上がったと思われる。 ②・新型コロナウイルス感染症対策のためボランティア活動は困難であったが、生徒会活動はオンラインで実施することができた。 ・部活動の加入率は昨年度より増加し、60%を上回るようになった。 ③・インターネットの活用や物品の寄付など、コロナ禍でもボランティア活動の充実を図る。 ・全体の部活動加入率は増加したが、1学年の加入率は昨年度より下回ってしまった。昨年より始めた新入生向け部活動紹介動画を引き続き配信する。	①指導の継続を通して生徒たちの更なる意識の向上とマナーの改善、事故の減少に向けた取り組みを実施する。 ②・インターネットの活用や物品の寄付など、コロナ禍でもボランティア活動の充実を図る。 ・全体の部活動加入率は増加したが、1学年の加入率は昨年度より下回ってしまった。昨年より始めた新入生向け部活動紹介動画を引き続き配信する。	①1年を通じた指導である程度の意識の向上や事故防止、マナーの改善が見られたようだ。 ②・新型コロナウイルスが落ち着いたら生徒のボランティア活動を参加できるように検討してほしい。 ・全体の部活動の加入率が1学年の加入率の減少が気になる。	①交通安全指導や立ち番指導などを通して交通安全に対する意識の向上が図れた。また、事故件数や苦情の減少などからも交通マナーなどの改善も図れたと考える。 ②・地域のボランティア団体と連携をとることができた。 ・全体の部活動加入率の増加と1学年の加入率の減少について原因は何か分析することが必要である。	①更なる意識の向上と交通事故の減少を目標に、交通安全指導と立ち番指導の継続とコロナにより、実施できなかった交通安全デーを実施し、地域の方々の協力をいただきながら指導を継続する。 ②・ボランティア団体と連携をとり続け、生徒が参加できるように取り組む。 ・部活動オリエンテーションで、動画による部活動紹介をおこなうなど、特に1学年の部活動加入を後押しする取り組みを進める。

3	進路指導・支援	社会的・職業的に自立できる力の醸成を図り、生徒一人ひとりが主体的に進路を考える姿勢を育むキャリア教育の充実を推進する。	生徒一人ひとりが、自身のキャリアを見通し希望をもって進路選択ができるように支援する。	①・職業観を育むことを目的とした探究活動を推進する。 ・インターンシップ等実践的な指導を継続する。 ・進路実現に向けた確かな学力の向上、およびそれに向けた指導体制の強化を図る。	①・新しい生活様式の中で、生徒が主体的に取り組んでいるか。 ・意識を持って社会的自立に向けた活動ができたか。 ・進路実現に向けた確かな学力や能力が身についたか。	①・探究活動と実践的な指導については、個々の呼びかけを心掛け、発表の機会を設けること等により、意識向上のきっかけとなった。 ・進路実現に向けた指導体制については、様々な角度から指導できるよう、面接指導担当者を複数配置する等の工夫を施し、一定の効果を上げた。	①・生徒が主体的に取り組む探究活動については、次年度より外部プログラムを導入し、強化を図る。 ・実践的な指導については、未だ制限がある中でも、新たな方法、考え方ををもって取り組む。	①・個別指導の結果が進路状況にも表れている。 ・進路未確定の卒業生に対してのフォローが、今後必要である。 ・高大連携を活用し、広義的な学習の機会を増やして欲しい。	①・進路実現に向けた個別指導を行った結果が進路先にも表れた。 ・探究活動の場を広く持つよう、関係機関との連携が必要である。 ・在学中ばかりでなく、卒業後のキャリア指導に着手する必要がある。	①・高大連携締結校を中心に、探究活動の計画を進める。 ・進路調査方法を卒業生にも実施する方向で検討する。
4	地域等との協働	PTAとの連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	本校の教育活動を理解してもらうために、積極的に地域の人材を活用し、教育活動の充実を図る。	①PTA活動において、生徒会や自治会等と連携し、地域夏祭りへの協力や地域貢献デーの清掃活動などの連携事業を計画・実施する。 ②学校運営協議会において地域や関係機関との連携を深め、教育活動を展開する。	①連携事業が実施できたか。具体的な成果があったか。 ②地域や外部機関の人材を活用した教育活動を展開できたか。	①コロナ禍において地域夏祭りへの協力はできなかったが、地域貢献デーの清掃活動は、生徒と協力し計画・実施することができた。 ②予定されていた全ての協議会がオンラインでの実施となってしまったが、貴重なご意見を多数いただくことが出来た。	①実施はできなかった連携事業もあったが、立案した計画等は次年度以降の参考となるよう、データ等の引継ぎを行う。 ②どのような状況にも対応できる事前準備を心掛ける。	①この地の神社の祭礼で、舞台発表等の生徒の活動を期待する。また、地域貢献デーでは、清掃活動以外の貢献も検討して欲しい。 ②コロナ禍において、オンラインではあったが学校運営協議会を開催出来たことは良かった。	①コロナ禍の中、生徒の活動が制限されてしまい、十分な活動ができなかった。地域貢献デーでは清掃活動は勿論であるが、自治会と連携した文化行事や交通安全指導にも参加を検討したい。 ②事前に委員の方からご意見（質問）を伺い開催出来たことは良かった。今後は更に多くの人材を活用した教育活動を展開していきたい。	①生徒会と連携し、場部活動の生徒の発表お場としても、地域との連携を強化したい。また、通学時の自転車に関する苦情を軽減するためにも、地域の方々のご意見を伺う場も設けたい。 ②地域との連携を更に深めることにより、多くの人材を教育活動に活用できるようにしていきたい。
5	学校管理 学校運営	①生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ②教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。また教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む組織の育成を図る。	①災害時に近隣住民が避難してくることを想定した具体的な防災計画を作成する。 ②職員が生徒と関わる時間を確保するために、効率的な業務改善に取り組む。	①避難訓練やDIG研修の実施方法や内容について従来のものを見直し、研究をする。 ②個別業務の役割分担及び適正化を図り、状況に応じて職員全体で対応できるように協力して業務に取り組む体制を整える。	①生徒の防災意識を高めることができたか。地域と連携した災害時の体制整備を進めることができたか。 ②業務改善を推進し、年次休暇を15日以上取得することができたか。	①コロナ禍ではあったが、ICTを活用し机上での避難訓練を行うことができた。 ②常勤職員の年次休暇の平均取得日数は14.2日で、15日以上取得した職員は38.5%であった。（時間単位の年休も日単位に換算した）	①避難訓練やDIG研修の実施方法や内容について、さらにICTを活用したものを取り入れていく。 ②取得日数が10日未満の職員が23.1%を占めており、取得日数の差が見られるため、各職員の業務量を精査し、一層の働き方改革を進める。	①大規模災害時の帰宅困難者の支援等、地域との連携も進めてほしい。 ②働き方改革の中、年休取得を阻む業務量を低減させるため、どのような計画を立てるのか。	①机上訓練ではあったが、ICTを活用した避難訓練は、防災意識を高める上で、役だった。 ②年休の取得率は目標に近い数値であるが、取得日数は職員によって大きな差が見られる。一部の職員に業務が集中していないか検証すると共に、特定の職員が業務を抱え込むことがないようにしたい。	①地域との連携を含め、ICTを活用した避難訓練の実施を模索して行きたい。 ②学期ごとに期間を区切って、年休取得状況を確認し、取得日数が少ない職員には、個別面談等を実施し、業務遂行状況を確認したい。さらに、各グループの業務量についても検証したい。